



令和 6 年 7 月 1 日

No.106

編集人

公益社団法人

兵庫県精神福祉家族会連合会

新 銀 輝 子

〒651-0062 神戸市中央区坂口通 2 丁目 1-1 兵庫県福祉センター 6 階 TEL:078-891-3871 FAX:078-891-3872
メール: hyokaren@citrus.ocn.ne.jp オフィシャルサイト: <http://www.hyokaren.or.jp>

苦しんでいる本人の心の叫びを！即解決へ！！

(公社) 兵庫県精神福祉家族会連合会 副会長 涌波 和信

ある日突然、家族が精神疾患の宣告を受け「途方に暮れ、具体的な解決もできずに、ただ何が何だか分からないまま月日が過ぎる。今の環境から抜け出したい。希望の糸口を見つけない！」「苦しいのは、精神疾患になり、就労も結婚の夢も破壊されている本人！」その心の叫びを解決する家族会活動が大切です。

30年も前のことです。私が家族会を軌道に乗せるために、まずしたことは、「相談窓口がはっきりしていること」「いつでも安心して相談できること」「専門的な知識を持った人が対応してくれること」「必要なとき当たり前に即、対応してもらえること」が出来る、魅力のある家族会を築きそれを持続したことです。どんなに立派なイベントをやっても、即、実行に移さければ、心の叫び！をもつ本人の希望ある明るく自立し安心した生活にはできません。

その為に、家族のみでは解決できません。家族会に当事者、医療、福祉、就労、行政、専門家(PSW、臨床心理士、社労士等)、議員の方々も参加して、一緒に苦しんでいる本人の心の叫びを聞くオープンダイアログを実現してください。

都会も田舎も関係ありません。私の所属する家族会を支えているのは神戸市の精神科医主導「精神保健福祉地域支援の会みつばち」や、灘区保健センターと精神科医主導の「灘区精神障害者支援地域協議会」です。神戸市内各区に「地域支援の会」の輪を広げ、家族会と一緒に苦しんでいる本人の心の叫びを解決していくことが新たな目標です。

先般、勇気ある市議員が「精神障害について理解が少ない。さらに積極的に精神障害者の支援をしていくべきと考えるが見解を伺いたい。」と議会で代弁され、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの予算が組み込まれました。支援の輪が広がりつつあります。



入院者訪問支援事業の開始

「願い」

武庫ひまわり家族会 田中 里子

20年程前から、精神科病院での入院によって起きる様々な問題について見聞きする機会があるのですが、ただただお話を聞くことしか出来ず、胸が苦しくなる思いをしてきました。

入院者訪問支援員養成研修で、既に支援を実施されている行政の方からお話を聞かせていただいたのですが、「訪問支援員の訪問は弁護士等と同じで、病院側は断ることが出来ない」と聞いた瞬間、「求めていたものだ!」と感じました。

依頼があれば、いつでも訪問ができる。閉鎖病棟に入院中の方にも会うことができる。これは、貴重な一步になります。このような研修を受けさせていただき、深く感謝しております。

全ての精神科病院において、支援を必要とされている方々が自由にこの制度を利用できる環境が整うには時間がかかると思いますが、その日が来ることを信じて支援員の方々、関係機関の方々と力を合わせて活動していきたいと思っております。

一回一回の訪問を大切に、依頼者の方にも、病院の方々にも、心を込めて接してまいります。支援が必要な方々にとっても、病院にとっても、そして地域社会にとっても、この事業の実施と発展が良い結果をもたらすことを願って。



入院者を尊重した寄り添いに～面会交流～

木の芽家族会 武下 昌子

改正精神保健福祉法により入院者訪問支援事業が始まります。訪問支援員の養成研修に、ケアする家族の立場で兵家連から参加させていただきました。

入院することで、精神科病院の中で心理的に弱い立場となることがあります。「どうせ言っても無駄だろう」「症状のことを話すと入院が長引くのでは」といった諦めや恐れなどから必要な意思伝達も諦める。そんな患者さんと面会しながら、本来持つ権利を守るための支援をするのが訪問支援員です。

訪問支援でキーワードとなる「アドボカシー」。昨年発足したこども家庭庁でも、子どもが意見や考えを表明できるように支援する「子どもアドボカシー」が重視されているようです。権利擁護や支援のために声を上げること、とも言えるでしょうか。代弁よりも入院者本人が意思表明できるようにする支援が求められます。研修では、丁寧に聴くことを通して本人の希望や考えを拾っていくロールプレイを繰り返しました。入院者が安心して話せる面会にできるかどうか、重要だと感じます。

外部から入ることによって病院の風通しも良くなることも期待されます。人としての尊厳を取り戻すきっかけとなる活動にすべく、未熟ながらお役に立ちたいと思います。



第 19 回兵庫県障害者芸術・文化祭 美術工芸作品公募展が開催されました

表記の展覧会が令和 6 年 3 月 1 日～10 日に兵庫県立美術館ギャラリーで開催されました。

今年度は412点の応募がありました。絵画部門が出品数全体の半数以上を占め、優れた作品が多かったように思います。

一方で、写真部門については出品数が少なく、より多くの方にチャレンジしていただきたいです。来年度も県立美術館で「美術工芸作品公募展」を開催する予定です。来年も皆さまからの出品を心よりお待ちしております！



兵家連会長賞受賞作品は、【天然記念物 三春瀧桜】の堀之内 健治氏でした。

令和 5 年度 精神障害者保健福祉手帳による医療費助成 (福祉医療) 制度セミナーが開催されました

精神障害者への医療費助成は自立支援医療(精神科の通院)がありますが、1 割の自己負担です。一方、市町村の条例により①精神科の通院 ②精神科の入院 ③精神科以外(一般科)の通院 ④精神科以外(一般科)の入院について医療費助成が様々な形で成されています。例えば、名古屋市では、手帳 1 級・2 級の所持者は①～④は全て無料となりますが、神戸市は、①の助成はなく、②の一部負担がありますが、③・④は、手帳 1 級所持者のみです。皆様もご自分の市町の医療費助成を確認してください。

精神障害者保健福祉手帳所持による医療費助成(対象等級)の範囲(例)			
	兵 庫 県	神 戸 市	丹 波 市
① 通院：精神疾患(精神科)	無し	無し	1 級、2 級、3 級
② 入院：精神疾患(精神科)	無し	無し (一部助成制度有)	1 級、2 級、3 級
③ 通院：精神疾患以外(一般科)	1 級	1 級	1 級、2 級、3 級
④ 入院：精神疾患以外(一般科)	1 級	1 級	1 級、2 級、3 級

投稿

心の病に対して 企業ができる配慮は何が必要か！

当事者が運営する会 りょうが会 代表 栗山 隆幸

増加傾向にある精神の病。誰もが病と背中合わせの状態です。その中で事業主ができる心の病に対する気遣いについて、書きたいと思います。

最も改善が難しいと思われる根本的な根深いもの。それは、企業自体の体質です。会社の事務所(役職クラス)と現場の古株が、この病に対してもっと勉強して理解(歩み寄り)を深めるべき!です。精神論を一方的に押し付けるのは時代錯誤です。真面目に仕事をしている従業員に対して、発病したら、「怠け病」「気合が足りん」など当たり前につけてきます。会社の為に頑張ってきたのに潰れたら追い打ちのように「大丈夫?」「頑張って!」「元気出して」とプレッシャー用語を浴びせられるのです。

まず、潰さない努力をしてほしいです。社員の個性を理解して適材適所に配置し、人と比べたりする発言は控えて、わからない事は聞きやすい環境を、作業の遅れや休む時のバックアップ体制の充実を求めます。(すごく気を遣っています)出勤率などをちらつかせるのは脅迫です。

次に発病後の対応について。心の病も多種多様にあり、人それぞれ症状も病名もちがいます。病名=同じ症状とは限りません。最初に、適応障害の診断が出ることがあると思いますが全員同じ症状ではありません。適応障害の代表的な症状は①睡眠障害②何もやる気が起こらない③孤独になりたい等です。

- ① 睡眠障害 : 夜に寝ようとしても眠れず、朝方によく眠れるので仕事に行けなくなったりします。
- ② 何もやる気が起こらない : 心の充電が無くなって無気力状態になり、お風呂にも入れずゴミを捨てる事もできないことがあります。
- ③ 孤独になりたい : 大好きだったことにも意欲がわかず、身近な人と会う気力も失ったりします。こんな時は携帯が鳴っても出ないことが多いです。

休んでしまった方への接し方としては、連絡方法を選ばせてあげて欲しいです。昼間は寝ていることが多いので、家に来られても会いたくない場合もありますし、電話や LINE などに対応することも困難になったりします。

「会社規則が」「いつごろから」「このままでは」と言われてもプレッシャーなだけで治るものも治らず、逆に追い詰めていることになったりしますのでご注意ください。

精神科救急窓口のご案内

精神科救急情報センター電話番号 : 078-367-7210

平日 : 午後 5 時～翌日午前 9 時

土・休日 : 午前 9 時～翌日午前 9 時

(平日昼間は健康福祉事務所へ)

※ご利用の際は、氏名・住所・連絡先を対応職員に教えてください。





ピアサポーターが 小学 6 年生に語りました

峰の会家族会 大塚 記美代

昨年、小学校の6年生に、ピアサポーター2人が、自分の体験を語りました。どういう経緯で授業に至ったのかを、担任の先生にインタビューしてきました。

まず、この小学校では学校全体で「人権」について勉強し、総合学習のテーマとしていました。人権が守られ、誰もが暮らしやすい社会とはどういう社会かを考える中で、「誰も」の中には、自分も家族も高齢者も障害のある人も含まれるという思いに至りました。知的障害のある人とは学校内でも接しているが、他の障害がある人と接したことがないので、実際に話を聞いて理解を深めたいということで、福崎町役場の福祉課に相談したそうです。

町役場の福祉課の方より、精神障害のある人がピアサポーターとして活動しておりお話ができますとのことでした。担任の先生は、障害というと身体や知的、発達障害は一応知っていたので、精神障害のある人の話を聞きたいと思い校長先生に相談したところ、快諾されました。校長先生は、もともと子供たちの心を耕すためにはいろいろな人との出会いが大切だ、という教育方針を持っておられるので良い機会だと捉えられたようです。

〈生徒の反応〉

真剣に集中して話を聞いており、つっこんだ質問もたくさん出ました。興味本位ではなく、もし僕たちが精神障害の人を助けるとしたら、どんなことができますか？見た目ではわからないけれど、どうやったら見分けられますか？という質問があり、答えを一生懸命聞いていました。精神障害の人と初めて出会った、勇気をもって話をしてくれた、という感想がありました。

〈先生感想〉

ピアサポーター活動を支援している保健所の保健師さんから「話の内容はきついですよ」と言われて、子どもがショックを受けすぎないように、保健師さんに間に入っていただき、原稿内容を検討したうえでピアサポーターさんにお話をしてもらいました。私も精神障害の方と接したことがなかったので、お話が聞けて良かったと思います。

〈ピアサポーターの感想〉

子どもたちは一生懸命、話を聞いてくれました。質問の時間では、「どんな声掛けをしてほしいですか」など相手を思いやる内容の質問をいただきました。障害を持つ人の立場を理解しようとしてくれる子どもたちの態度に、未来を感じました。私自身、いい体験をさせてもらえたことに感謝しています。





生徒の心の悩みに寄り添って

兵庫県立福崎高等学校 教諭 宮本 拓実

令和4年度より、高校の保健の授業に精神疾患が追加されました。私にとっても生徒にとっても初めての内容であり、どうすればうまく生徒に伝わるのか手探りで授業準備となりました。準備を進める中で、過去の私自身の行動や発言は正しくなかったのではないかと考えました。ある生徒から相談があったときに、一見すると元気そうであったため、部活動に励むよう声掛けをしました。その生徒はもっと話を聞いてもらいたかったのではないかと、別の声掛けの仕方があったのではないかと今振り返ると思います。そこで「心の中のモヤモヤは外からでは分からない。分からないからこそ、自分の心や友だちの心を大切にする力をつけさせよう」という目標を立てて授業に臨みました。

授業が始まり、「うつ病」や「拒食症」など、名称は知っていても自分にもおこりうるものとしてとらえていない生徒が多いことが分かりました。また、学校を長期に休んでいる友だちのことを「あいつだけずっと学校サボって…」という空気を感じることもありました。そこで、授業内でカウンセリング体験をおこないました。生徒をカウンセラー役と相談役に分け、ストレスの原因となるテーマを1つ決め、疑似的にカウンセリングをおこないました。生徒の反応は様々でしたが、特にカウンセラー役をした生徒の多くが「その人が何に悩んでいて、その悩みをどうすれば解決してあげられるのか考えるのが大変だった」と答えました。この授業を通して、少しではありますが、他者の内面を理解しようとする気持ちが養われたのではないかと感じました。

5人に1人が精神疾患にかかると言われる現代において、「自分だけは大丈夫」、「自分にかぎって心が弱いなんてありえない」と思い込んでいる生徒にこそ適切な相談場所や支援を提供できる環境づくりが大切だと感じます。本校でも、定期的にカウンセラーに来ていただき、誰でも相談ができる環境を整えています。しかし、精神疾患に悩む当事者にとっては、繊細な話題であるため、それだけでは不十分で、社会全体として偏見がなくなっていくことが望まれると考えます。その一助となれるようこれからも授業の進め方などを模索していきたいと思います。

ひょうかれんは、あなたのご支援で運営されています！

ひょうかれん賛助会員募集

会員の皆さまには、会誌「ひょうかれん」を年3回お届けします。また、年1回誌面でご紹介させていただきます。

年会費：団体の場合 一口 10,000 円
個人の場合 一口 3,000 円
一口以上何口でも結構です。

振込先：郵便振替 01110-4-83568 兵家連





地域事業所と家族会の取り組み

特定非営利活動法人そよかぜねっと 公認心理士

北上 亜矢子

三木市で活動をしている特定非営利活動法人そよかぜねっとは、現在、就労継続支援B型・就労定着支援・共同生活援助・短期入所の4つの事業を行っています。この法人の前身は家族会「ほのぼの会」です。ほのぼの会は、平成10年に活動を開始し、平成12年には当事者の居場所、社会復帰の場として小規模作業所「やすらぎ工房」を開所しました。活動の土台を作られたエネルギーには圧倒されます。その力強い家族会からバトンを受けとり、現在の法人へと繋げてきました。法人にとって家族会の存在は「常に見守り続けてくれる暖かい存在」です。利用者・職員の活動を尊重し、見守り、時には褒めの達人です。この度、工賃向上だけでなく、障害があっても・なくても、互いの特徴を活かし自然と境界線を行き来するボーダーフリーの地域生活を考える一歩として、新たに就労継続支援B型事業にてイタリアンジェラート専門店をオープンします。これからも家族会・法人が協力し、有るがまま自分たちが過ごしたい環境で尊重しあって過ごせる地域社会はどんな形かを模索していきたいと考えます。



地域活動支援センター庵ノ上と家族会

NPO法人庵ノ上 施設長 二見 朋子

「NPO法人庵ノ上」は、地域活動支援センターとして、平成26年8月1日に加西市に開設し、今年でちょうど10年を迎えます。

家族会は、その3年遅れで平成29年に「加西家族会」として発足しました。

家族会の会則には「事務局を地域活動支援センター庵ノ上に置く」とあり、当初から事業所の理事長が家族会の会長も兼任していたこともあり、家族会の事務や行事も事業所の職員が全て担っています。家族会員の皆さんには、その都度、事業への参加の声かけをしています。

事業時には他障がいの利用者、その家族や関係機関も含め、交流するいい機会となっています。最後に家族会の後ろ盾として「ひょうかれん」が存在することも、家族会だけでなく事務局を司る事業所にとっても大きな安心感があります。何かあった時の相談だけでなく全国的な流れや動きが自分たちの殻の中で留まることなく、いろいろな問題点や方向性を示唆してくれるので、心強い思いでいます。

家族の手記



絆

峰の会家族会 ^{きむら}木村 ^{みょうえ}明恵

出会いは、精神科のデイケアです。

最初のデートは、レッサーパンダを見に、動物園に行きました。彼女はお酒が好きで、いつも居酒屋に行っていました。55歳と38歳で入籍しました。二人とも両親はいません。

深夜、妻が「救急車呼んで」と言いました。すぐに来てもらい病院まで運んでもらいました。病院に着いてから呼吸が止まり、ICUで治療してもらいました。家族を呼んでくださいと言われ、妻の叔父を呼びました。妻の叔父とはそのとき初めて会いました。三日目に意識が戻りました。その日、タクシーで家に帰り、降りた時に、妻のことでなんとも言えないせつなさを感じました。あの気持ちは、鮮明に残っています。入院費はどうしよう、後遺症が残ったらどうしようと心配しました。

ある日、昼頃から5時間もうつむいて、ただじっとしてた妻が突然動き出して、薬をがぶ飲みしようとするのです。必死にとめました。どうすることもできず救急車と警官に来てもらいました。入院中に妻は、なんで私を助けたん、という走り書きの紙を僕に渡しました。

またある日は頻尿がひどくなり、泌尿器科に行っても治らず、保健師さんの協力を得て、かかりつけ医に行きました。その結果、精神科に入院がきまりました。3日目に面会に行くと、妻が帰りたと言い、かわいそうになり連れて帰りました。私は、「帰ったら地獄みるで、それでもええか」と言いました。

言った通り、妻は屋根から飛び降り、傷まみれの足で家の中に入ってきました。背中とお腹が痛いというので、さすってあげました。買った薬を全部飲んで、警察にもお世話になり、病院に行き点滴をしてもらいました。僕も作業所を休み、3か月つきっきりでした。

でも、それから妻は大好きなお酒をやめ、今は落ち着いています。油断はできないけれど、今ではよかったと思っています。

この5年間、いろんな事がありました。二人共しんどかったです。いい事といえば、二人とも必死で生きてくることができました。その結果成長できたことが一番の喜びです。

早朝のお寺参詣と週末の公衆トイレ清掃は、ほとんど休まずに二人で行っています。

別れずによかった。今になって二人の絆はすごく深まっています。

みんなねっと賛助会員・購読者募集中

兵家連では家族会の全国組織である「みんなねっと」の活動を支え、更に発展を促す為に「月刊みんなねっと」購読者の拡大活動を行っています。



賛助会員（購読料金）

- ・個別賛助会員 年会費 3,600 円
- ・特別賛助会員 年会費 5,000 円～
2冊以上の団体賛助会員もあります。



詳しくは、みんなねっと（TEL03-5941-6345・平日 10～16 時）まで。

当事者の声

「つながり UP 文化展で

受賞の喜び」

就労継続支援 B 型事業所 マイドリーム 徳地 道也

今回の文化展で金賞を頂けて嬉しく思います。これで3年連続の受賞で感謝しています。

そのうち第1回と第3回は金賞、第2回は銅賞をもらって自分自身凄く強くなりました。自分ではてんかんの病気がありペースメーカーをつけています。

作業をする時に手が震えたりして悩んだりします。でもいつも側に妻がいてくれることで心強くいられます。自分は1番初めは、ちぎり絵をしていました。その後、スクラッチアートをするようになり、第1回の展示会に出品させていただきました。ダイヤモンドアートは妻のすすめで始めました。ビーズを一つ一つ布に貼っていき、1つの作品に仕上げますがとても集中力がいられます。自分の思いを込めて作った作品が完成した時には、とても言い表せないくらいの感動があります。自分には妻がおり、マイドリーム作業所の仲間がいて指導員の方にも助けていただいています。良い作品が出来て本当に嬉しく思います。また次の作品に向かって頑張ります。



就労継続支援 B 型事業所 マイドリーム 徳地 眞美

この度は文化展で銀賞を頂くことが出来て、大変嬉しく思っています。

ありがたいことに、夫婦揃っての受賞と電話で聞いたときには二人で喜び合いました。

私達は作業所で知り合い、14年前に結婚をしました。私は高校生の時から精神を患い何度も入退院を繰り返しています。主人はてんかんの病気を持っています。わたしたち夫婦は助け合うことでお互いに救われています。これからも二人の生活を大切にしていきたいと思っています。

私は刺繍をするようになって約10年になります。今回の作品は、私が作った中で一番大きな作品となりました。皆さんに見ただけでとても嬉しく思っています。



電話相談

Q & A

今回もご相談いただいたご家族からの事例をご紹介します。
なお、守秘義務により内容は若干変更させていただいております。

ひょうかれん 電話相談員担当 PSW

相談内容:クローズによる就職について

Q 子供は以前、介護職として頑張っていました。仕事がつくて、精神的に不安定になり、仕事を辞めざるを得なくなりました。そして長年のひきこもりから、やっと周囲の勧めで精神科にも通い、就労系の事業所にも通っていました。昼夜逆転もしなくなり、精神的にも回復したようです。薬もお守り程度です。クローズで再就職を考えていますが大丈夫でしょうか？

A 精神疾患をお持ちの方がお仕事を始められる際に、クローズの方もおられれば、オープンの方もおられます。それぞれのメリット、デメリットを一般的な観点からお伝えしますとクローズの場合は、①障害者求人に対して一般求人の方が求人数が多い②求人数が多い為、様々な職種に応募ができる。③事業所にもよるが、給与が障害者雇用より高いことが多いというメリットがあります。一方で①クローズにしていることで、勤務態度、勤務内容などの配慮を得ることが難しい②定期的な通院などの調整が難しい場合があるといったデメリットが挙げられます。オープンの場合は①障害や疾患についての理解をしてもらいやすい②職場環境、業務内容などを企業に相談しやすく必要に応じて配慮を得られること③就労系事業所のサポートがある場合の相互の働きやすさがあり継続しやすいなどのメリットがあり、一方で①オープンにしていることで、求人の幅は少なくなる②入社時に自身の障害、疾病、特性などを説明する必要がある。というデメリットが考えられます。

相談員の見解では、継続して働くためにはオープンの方が望ましいと思いますが、最終的にはご本人の気持ち様が大切であり、双方のメリット・デメリットを理解し、就職活動をされることをおすすめします。

ひょうかれん電話相談

病気のことや経済的なこと、くらしの悩み、福祉制度（手帳・年金・他）利用の手続きなどについて、精神障害者相談員として県知事委嘱を受けた家族相談員や、精神保健福祉士などがご相談をお聞きします。（匿名可）ぜひご利用ください。

TEL : 078-891-3886

平日 10 時～12 時、13 時～15 時

※年末年始・夏季休業日及び神戸市に警報が発令されている場合は休業させていただきます



令和 5 年度も、下記の団体及び個人の方々がひょうかれんの活動にご賛同くださり、
賛助会員にご加入いただきました。厚くお礼申し上げます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。
(順不同・敬称略・令和 5 年 3 月 31 日現在)



医療機関の部

医療法人社団東峰会関西青少年サナトリウム理事長 瀬川義弘、河崎医院 日笠久美、
いるか心療所 九鬼克俊、かねだ心療クリニック 金田弘幸、永安心療クリニック 永安茂雄、
宮崎クリニック 宮崎隆吉、花田神経内科クリニック 花田進、大森クリニック 大森和広、
たなか心療内科 田中勇三、岩尾クリニック 岩尾俊一郎、たかみやこころのクリニック 高宮静男、
医療法人山伍会播磨大塩病院、医療法人社団清風会香良病院、医療法人社団新川医院、
医療法人全人会仁恵病院理事長 中島宣行、医療法人社団楓会大西医院理事長 小林哲夫、
原田心療クリニック 原田元基、医療法人社団随縁会ことしろクリニック理事長 印部亮助、
いずみ心療クリニック 谷口加容、平本医院 平本憲孝、医療法人達磨会東加古川病院、
さくらこころのクリニック理事長 南中さくら、京谷心療医院 京谷泰明

一般団体の部

北家族会、一般社団法人伊丹市医師会、一般社団法人兵庫県トラック協会会長 原岡謙一、
一般社団法人赤穂市医師会、一般社団法人佐用郡医師会、一般社団法人兵庫県医師会、
一般社団法人兵庫県民間病院協会、公益社団法人兵庫県看護協会会長 丸山美津子、
一般社団法人宝塚市医師会、社労士金子事務所 金子友造

法人・施設・作業所の部

NPO 法人すぎなの会、NPO 法人蓼の会ぐりん・どあ、NPO 法人つつじ会、NPO 法人くぬぎ、
NPO 法人すぎなの会 ユーアイネットすぎな、NPO 法人加古川マインド心のワークセンター、
NPO 法人こころ・あんしん Light、(社福)淡路島福祉会あわじ障害者多機能型施設ウインズ、
特定非営利活動法人 居場所、ひょうご障害者福祉協同組合 代表理事 本條義和、いねいぶる、
社会福祉法人かがやき神戸、無記名

個人の部

北浜みどり、北川泰寿、西ただす、橋本成年、村野誠一、辻本達也、深田照明、東田寿啓、田中こう、
広田まゆみ、綿瀬和人、義本みどり、加柴扶美、橋本和彦、立花俊治、桑名幸夫、田中あきよ、
松原久美子、大前はるよ、白井和弥、八木米太郎、岡田ゆうじ、内藤博史、香川真二、西ひとみ、
大野眞一、川並正幸、小菅和子、西池絵衣子、寺延順市、楠本美紀、今中英志、木下輝治、榮正浩、
鈴垣育子、神澤正三、村田庸子、游発順、徳安淳子、松本則子、松尾享、尾西ゆみ子、久保田智万、
植中雅子、佐野千恵子、小林るみ子、安部文子、高橋ひでのり、青木聖久、金田知子、森元清蔵、
上野英一、高瀬建三、石川悦子、天野洋子、窪田潤子、西脇忠之、久保田康愛、藤本百男、きだ結、
朝倉越子、西理、高野純江、東田巖、かじ幸夫、石川也寸志、櫻井周、高坂純子、有野和枝、
志内奈津代、中田智恵海、村上恵一、匿名、無記名

兵 家 連 活 動 日 誌

役 員 の 動 き

(2024年1月~4月)

K S K P

発行人..関西障害者定期刊行物協会/大阪市天王寺区真田山町2-2 東興ビル4F
一九四八年八月二〇日第三種郵便承認 毎月(一・二・三・四・五・六の日)発行

定価..五十円

1月	5	新年挨拶回り(福祉センター・神戸市庁・県庁・兵精協)<新銀、南部、藤田>
	6	第3回電話相談員 語りのカフェ(事務局)<新銀、電話相談員>
	7	ひろばICT 明石地区(ふれあい作業所・電話・ZOOM)<南部>
	10	立憲民主党要望会打合せ(事務局)<新銀、南部、涌波>
	12	ひろばICT 神戸・阪神地区(事務局・電話・ZOOM)<南部>
	14	ひろばICT 姫路・中播地区(峰の会作業所・電話・LINE)<大塚>
	15	入院者訪問支援事業訪問支援員養成研修(新大阪丸ビル)<田中、武下>
	17	第3回県精神障害者相談員スキルアップ研修(webリモート会場)<新銀、藤田>
	18	第67回きょうだいい会(県福祉センター)<新銀>
	20	このころの病家族教室 阪神南地区(木口記念会館)<芦屋家族会> スマホPC教室 北播磨地区(ポイントアート青山)<ほのぼの会> このころの病家族教室 阪神北地区(キッピーモール)<にじの会> ひろばICT 三木地区(アイグルー・電話・ZOOM)<新銀>
2月	21	ひろばICT 明石地区(ふれあい作業所・電話・ZOOM)<南部>
	24	スマホPC教室 阪神北地区(三田市総合福祉保健センター)<にじの会>
	26	臨時運営委員会<県福祉センター>(※1)
	28	ひろばICT 淡路地区(いちばん星・電話・ZOOM)<みはら家族会> 親なきあとの子どもの在宅支援を考える会 東播磨地区(明石市総合福祉会館)<明石ともしび会> このころの病家族教室 中・西播磨地区(宍粟市役所)<宍粟すぎの木家族会・新銀>
	31	第5回ユニバーサルスポーツ分科会(県庁)<新銀>
	1	このころの病家族教室 但馬・丹波・北播地区(加西市健康福祉会館)<加西家族会・新銀>
	2	このころの病家族教室 阪神北地区(ぶらぎこむい)<宝塚家族会>
	3	ひょうご7団体滝山病院問題勉強会(県福祉センター)(新銀)
	4	ひろばICT 明石地区(ふれあい作業所・電話・ZOOM)<南部> 親なきあとの子どもの在宅支援を考える会 中播磨地区(福崎町文化センター)<中播磨峰の会> このころの病家族教室 東播・淡路地区(洲本市文化体育館)<南部> ひょうごボランティア基金助成事業 事業報告会(神戸クリスタルタワー)<南部> 第2回兵庫県障害者雇用・就業支援ネットワーク会議(神戸ポートオアシス)<涌波>
	5	会誌106号編集委員会(県福祉センター)<※2>
3月	7	令和5年度第6回運営委員会(県福祉センター)<※1> 障害福祉課要望書打合せ清瀬主幹来所(事務局)<新銀、南部>
	9	ひろばICT 神戸・阪神地区(事務局・電話・ZOOM)<南部>
	10	精神保健福祉研修会 東播・淡路地区(明石市立総合福祉センター)<明石ともしび会家族会>
	11	ひろばICT 姫路・中播地区(峰の会作業所・電話・LINE)<大塚> 親なきあとの子どもの在宅支援を考える会 神戸地区(県福祉センター)<木の芽家族会>
	13	親なきあとの子どもの在宅支援を考える会 阪神北地区(三田市まづくり協働センター)<にじの会> 近畿ブロック兵庫第2回WG会議(県福祉センター)<※1、井口>
	15	令和5年度第2回兵庫県福祉サービス運営適正化委員会(県福祉センター)<三木> 令和5年度第3回運営監視合議体会議(県福祉センター)<三木>
	17	ひろばICT 三木地区(アイグルー・電話・ZOOM)<新銀>
	18	ひろばICT 明石地区(ふれあい作業所・電話・ZOOM)<南部>
	21	親なきあとの子どもの在宅支援を考える会 阪神北地区(キセラ川西プラザ)<おむぎのめ家族会> 障害者社会参加推進協議会(県福祉センター)<南部>
	22	スマホPC教室 阪神北地区(三田市総合福祉保健センター)<にじの会>
4月	23	重度障害者医療費助成制度についての講演会(神戸市立総合福祉センター)<南部>
	24	ひろばICT 淡路地区(いちばん星・電話・ZOOM)<みはら家族会> 精神障害者地域移行促進人材養成研修 フォローアップ1日目(兵庫県こころのケアセンター)<藤田> 令和5年度第2回神戸地域障害者雇用・就業支援ネットワーク会議(クリスタルタワー)<佐伯>
	27	精神障害者地域移行促進人材養成研修 フォローアップ2日目(兵庫県こころのケアセンター)<藤田>
	28	第19回芸文祭美術工芸作品公募展選考会(県立美術館)<新銀> 県福祉センター入居団体連絡会議(県福祉センター)<藤田>
	29	県立ひょうごこころの医療センター運営懇話会(県立ひょうごこころの医療センター ひかりの森)<藤田>
	1	第2回精神障害者への歯科包括ケア体制整備検討会議(Webex)<藤田>
	3	ひろばICT 明石地区(ふれあい作業所・電話・ZOOM)<南部>
	7	第19回県障害者芸術・文化祭 美術工芸作品公募展(県立美術館)<新銀>
	8	ひろばICT 神戸・阪神地区(事務局・電話・ZOOM)<南部> 県精神科救急医療体制連絡調整委員会(県民会館)<涌波> ヤングケアラー支援推進委員会(県中央労働センター)<藤田>
	10	ひろばICT 姫路・中播地区(峰の会作業所・電話・LINE)<大塚> 第19回芸文祭 美術工芸作品公募展表彰式(県立美術館)<新銀>
5月	13	みんなねっと理事会(AP東京八重洲ビル)<新銀>
	15	ひょうご障害者福祉協同組合シンポジウム2023(姫路市総合福祉会館)<新銀>
	16	第68回きょうだいい会(県福祉センター)<福田> ひろばICT 三木地区(アイグルー・電話・ZOOM)<新銀>
	17	ひろばICT 明石地区(ふれあい作業所・電話・ZOOM)<南部>
	18	スマホPC教室 阪神北地区(三田市総合福祉保健センター)<にじの会>
	19	県障害者スポーツ協会第40回理事会(県民会館)<新銀茂>
	20	近プロ兵庫第3回WG会議(県福祉センター)<※1、満原> 令和5年度第5回理事会(県福祉センター)<※3>
	22	県ユニバーサル推進課増田様と打ち合わせ(事務局)<新銀>
	23	親なきあとの子どもの在宅支援を考える会 北播磨地区(青山公民館)<ほのぼの会・新銀>
	24	ひろばICT 淡路地区(いちばん星・電話・ZOOM)<みはら家族会>
6月	25	令和5年度市町障害保健福祉担当課長会議(Teams)<新銀>
	26	県社協第220回評議員会(県福祉センター)<新銀>
	3	近プロ兵庫第3回WG会議(県福祉センター)<※1、満原?> 令和6年度第1回運営委員会(県福祉センター)<※4>
	6	第4回電話相談員 語りのカフェ(事務局)<新銀、電話相談員>
	※1	新銀、南部、藤田、涌波、大倉、佐伯、新銀(茂)
	※2	新銀、南部、藤田、涌波、大塚、三木、代田
	※3	新銀、南部、藤田、涌波、大倉、佐伯、和田、河上、満原、前田、久下、新銀(茂)、三木、大塚、小林
	※4	新銀、南部、大倉、佐伯、新銀(茂)、満原
	17	ひろばICT 三木地区(アイグルー・電話・ZOOM)<新銀>
	18	ひろばICT 明石地区(ふれあい作業所・電話・ZOOM)<南部>

編集後記

編集委員:新銀、涌波、南部、藤田、大塚、三木、代田

2024年の幕開け元旦、日本にどれくらい激震が走った。自然災害とはいえ多くの人が全てを失って打ちひしがれ、辛すぎる現実。それでも人々は隣人や手を差し伸べた人と共に地道に、残された力と知恵を出し合って立ち上がり前進していく。このたくましさは、今後の家族会活動の大きなヒントにもなる。(代田)